

▼トレプロスト注射液 [注]

【重要度】 【一般製剤名】トレプロスチニル Treprostinil 【分類】肺動脈性肺高血圧症治療剤 [PGI₂ 誘導体]

【単位】▼20mg▼50mg・▼100mg・▼200mg/V [20mL]

【常用量】開始量1.25ng/kg/分. 忍容性がない場合は0.625ng/kg/分に減量.

最初の4週間は1週間あたり最大1.25ng/kg/分で増量し、その後は臨床症状に応じて1週間あたり最大2.5ng/kg/分で増量し、最適投与速度を決定.

【用法】持続静注もしくは持続皮下注

【透析患者への投与方法】

【保存期 CKD 患者への投与方法】

【特徴】化学的に安定化したPGI₂誘導体. 血管拡張作用, 血小板凝集抑制作用を有し, 肺動脈性肺高血圧症に適用される.

【主な副作用・毒性】血圧低下, 失神, 出血, 血小板減少, 好中球減少, 注射部位異常, 動悸, 低血圧, 消化器症状, めまい, 浮腫など

【F】100% [sc] (1)

【tmax】

【代謝】CYP2C8により代謝 (1) グルクロン酸抱合, 酸化, 酸化開裂, 脱水化を受けると推定 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率6% [iv, 48hr まで] (1) グルクロン酸抱合体として尿中に13%回収 [iv] (1) 尿中回収率78.6% (1)

【CL】8mL/kg/min [iv] (1)

【t1/2】0.5~0.8hr (1)

【蛋白結合率】96% (1)

【Vd】0.9L/kg [iv] (1)

【MW】390.51

【透析性】資料なし (1) 除去されにくいと思われる (5)

【O/W 係数】LogP=1.5 [1-オクタノール/水系] (1)

【相互作用】CYP2C8 阻害剤 (デフェラシロクス) : 剤のAUC及びC_{max}が上昇し本剤の副作用が発現するおそれがある (1) リファンピシンにより作用減弱の可能性 (1) 抗血栓剤との併用注意 (1)

【更新日】20201210

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。